

夏季、南極海リュツォ・ホルム湾沖における
動物プランクトン生物量の水平分布および鉛直分布
(研究紹介：三重大学生物資源学部 2011年3月提出卒論)

本研究は、夏季の南極海リュツォ・ホルム湾沖の開水域から浮氷域、定着氷域にいたる水域の動物プランクトンの生物量について水平および鉛直分布の特性を明らかにすることを目的とした。

本研究のための標本は、ほぼ東経38度線に沿った南緯66度以南のリュツォ・ホルム湾沖の海域の5観測点 (Stns. L9, A3, L12, A1, A0) において、ガマグチネット (目合60 μm) を用いて0-100 m, 100-200 mおよび200-500 m (一部0-300 m) の区分採集により得られた。各測点において、ガマグチネットによるプランクトン採集の他に、CTDを用いた水温および塩分の測定を行う同時にクロロフィル a 濃度の測定のためにニスキン採水器による採水を行った。標本は5% ホルマリンで固定し、実験室にて13動物群毎に区分し顕微鏡で計数を行った。各動物プランクトン群の個体数は、ネットの濾水量から m^3 あたりに換算して求めた。ネットの濾水量はガマグチネットの口輪にとりつけたフローメーターの読みから計算した。

本研究により、動物プランクトン個体数密度は、Antarctic Slope Front (ASF) の北側で高く、南側で低いことがわかった。出現した動物群のうち、カイアシ類と有孔虫類が優占し、これら2群で全動物プランクトン個体群の87% 以上を占めた。また、カイアシ類と有孔虫類の69% 以上が200 m以浅に分布することが明らかとなった。

王 賢娉

次回のゼミ (11月18日 [金]、13:30～、W203にて) は卒業論文中間発表です。